



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



来年度新事業に向けて、 臨時総会を開催

「障害者自立支援法」が2013年4月1日より「障害者総合支援法」に変更され、発達障がい児・者も福祉サービスが利用できるようになりました。新たな相談支援事業とは「育むを支援する、相談窓口」。その内容は「障害者やその家族に対して、各種の相談に応じ、情報提供及び助言、指導を行うとともに、県、市町、障害福祉サービス提供事業者、医療機関等との連絡調整を行い、障害者やその家族の地域における生活を支援し、在宅障害児者の自立と社会参加を促進する」というものです。

現在、2ヶ所の福祉施設から職員が出向し、障がい福祉課(市役所本庁1階)で窓口および電話で相談を受け、訪問も行っています。相談員が24時間携帯電話を持ち、相談を受け付けます。夜間の電話相談も多いそうです。最近では発達障がいを含む精神障がい者からの相談も増えています。

11月に障がい福祉課担当者から「なんとなくのにお」に相談員出向の話がありました。栗原の持つ「精神保健福祉士」の資格を生かすことができる機会ではと思ひ、相談事業を受けることができないか、担当者との打ち合わせを行いました。その中で、事業を受けるためには、指定一般相談支援事業(栃木県の指定)または指定特定相談支援事業(日光市指定)いずれかの指定取得が必須であり、定款に事業名を明記しなくてはならないことがわかりました。来年度からの事業実施には、定款変更が必要となりましたので、臨時総会を1月8日に開くことにいたしました。

総会において、日光市の「指定特定相談支援事業」取得要件を満たすため、定款第5条(1)特定非営利活動に係る事業に新たな項目「⑧第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営」の追加を提案いたしました。みなさまのご協力により、会員および表決委任者27名の参加者全員一致で事業項目の追加を承認いたしました。現在は、日光市による定款変更認証手続きに入り、3月中には登記が完了する予定で、新事業の準備を進めているところです。今後もみなさまの協力をよろしく願います。(栗原)

特定非営利活動法人 なんとなくのにお

「なんとなくのにお(なんにお)」は、不登校の子供達か、家にこもらず外へ目を向け、なんとなく遊びに来るようなそんな場所です。不登校や休校でもらった子の親が中心になって作られました。なので持ち場で相談にきてかまいません。子供達は、自由に好きなことをしてよいです。分けがたいと思われたいです。日光市平土の大きな家で毎週月、火、水、木(12:30~16:30)に開かれています。費用は無料です。見学自由です。気軽に来てみてください。2013年より、日光市教育委員会の事業に転換し、委託運営になりました。

なんにおホームページをご覧ください!

<http://www.nantonakuno.net/> には、

- 新しい居場所の様子
 - 今年度助成金で購入した物品
 - 通信バックナンバー
 - つくって食べよう! 食事会の記録
 - かんりにんのへや
- などが掲載されています。

目次

臨時総会報告	1
環境研究班より	2
下野新聞・地論(1月8日)	2
勉強会 3月15日	3
活動日誌	3
こんな本はいかが・23	4

居場所のひとこま

12月20日はクリスマス会。クリスマスツリーを飾り、みんなで料理をしました。パンに、お肉や野菜、卵焼きなどをはさみ、食べました。たくさんの量がありましたが若い人が多いのであっというまになくなってしまいました。(N)



「環境研究班」より

「自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動」の一環として「環境研究班」ができました。昨年は「今市の水を守る市民の会」塚崎さんの協力による「川むしたんけん隊」などを実施。

今年は「川むし」などの自然体験・調査とあわせて、地域の放射能汚染状況を把握し、環境保全を目的とした放射能移動の調査を目的とした測定を行っていきたいと考えています。福島原発事故で飛散した放射性物質は地面だけでなく、樹木の表面(樹皮)や常緑樹の葉などに付着していることがわかってきました。放射能はいずれは地面に落ち、土壌や水を汚染します。子どもたち、そして私たちの健康を守るためにも、市街地や自然環

境で放射能移動を継続して監視することが大切です。土壌、樹木そして焼却灰などの放射線を測定するため、行政や大学の協力を得ることができないか、連携を模索しています。あわせて、市民や行政が測定したデータを整理し、市民にわかりやすく、参考にしやすい形にまとめていく活動も計画しています。「サイエンス・カフェ」をより身近な環境問題をテーマとした実践的なものに変えていくことも今後の課題です。このようなテーマに興味のある方、協力可能な方の参加を歓迎します。ご連絡をお待ちしています。(環境研究班: 三上、手塚)

**3月22日(土) 午後2時より 市民活動支援センター
サイエンス・カフェ「測って守る」**
身の回りの放射線・放射能測定を考える 開催予定

学校と地域の連携を (下野新聞・地論26(2014年1月8日 掲載))

不登校の子、発達障がいを持つ子を支える「NPOなんとなくのひろば」ができて数年たったころ、スタッフが学校に出向き、教室に居づらいう子、不登校気味な子どもたちとの雑談やスポーツを行っていた時期がありました。担当教諭との連携や校長先生の理解を得て、うまく動いているように見えました。しかし残念なことに、教職員の異動があり年度を越えて継続することはできませんでした。市民として子どもたちの育ちを援助したいという思いと、学校現場の流れがかみ合わなかったのかなという気がします。両方を理解し調整する立場の人がいてくれたら、サポートは続いたのかもしれない。

昨年8月、「発達障がいを持つ中学生が進学する高校ではどんな援助があるのか」という問いに答える県内初の勉強会を開催しました。保護者や中学生、学校関係者など約40人が集まり、パネリストとして招いた県内の私立高3校と県立単位制高1校の話に耳を傾け、活発な意見交換が行われました。会を計画し、協力をお願いに地元の県立高を訪問したのは5月。新年度がスタートし行事予定等が固まっている中、派遣は難しいとして全日制高との連携は実現しませんでした。

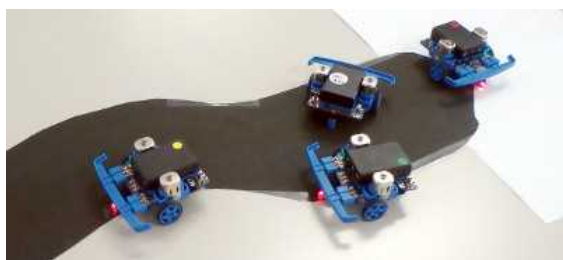
文科省は5年前から「学校支援地域本部」という事業を推進しています。地域との連携協力を、より組織的、持続的にという試みです。行事への保護者のボランティア活動、人手不足への援助といった従来のスタイルから一歩進んだ、地域と学校の協力が模索されているのです。この提言の中に「地域コーディネータの役割が重要」とあります。福祉分野での地域による支援と同様に、アイデアを出し合い、やってみようと思えばすぐに動き出す市民活動の持ち味を生かす、新たな仕組み作りが教育分野でも求められているように思います。

地域連携の視点から、いま全国各地で議論されている文科省学力調査結果の公表問題を考えてみました。「平均点を公表し、学校間の競争を促し効率の良い教育を」という政治家のメッセージで教育現場が右往左往させられるトップダウン改革には危ういものを感じます。学校がテストの平均点を競うことになれば、先生の多忙化は進み、地域との協力はむしろ難しくなります。広域の学力統計は、不利な立場にある子どもたちへの援助、学校を応援する政策立案のために使われるべきです。

では、地域の学力調査データはどう使うのか。もし、組織的かつ持続的な地域と学校の連携があれば、それを基盤に市民が教職員とともにテスト結果を分析し、意見を述べ合うことが可能になります。子どもの力を伸ばすために地域ができることへの取り組み、行政への提言に発展していくかもしれません。年間計画で動く学校と、フットワークの軽い市民団体との連携をどう構築していくかはこれからの課題です。いまは夢のような話かもしれませんが、そんな有機的な連携に、私たちのNPOが少しでも寄与できればと考えています。(手塚)

昨年3月に、下野の記者さんから「地論」の執筆を依頼されました。新聞に意見文を書くのはしんどいけれど、「なんにわ」を紹介するよい機会と思い、引き受けることにしました。何を書こうかと考えているうちに、締め切りが近づき、いよいよになって役員のみなさんに何度も原稿を送り、学校関係の方にも見ていただき意見を願うなど、ご迷惑をおかけしました。なんとか2度の役目を終えることができました。協力いただいたみなさまに感謝いたします。(手塚)

- 1 1月13日 (水) 理事会 (第55回)
- 1 1月23日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 1 1月27日 (火) つくって食べよう (ケーキ)、通信・なんとなくのひろば (第33号) 発行
- 1 2月 3日 (火) ワカモノフェスタ実行委員会
- 1 2月 4日 (水) ぼぼら (会計ソフトについて相談)、栃木県庁 (障害福祉課施設福祉係)
- 1 2月 7日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 1 2月 8日 (日) ワカモノフェスタ (「サイエンス・カフェ」)
- 1 2月10日 (火) 医療機関と連携した精神障害者の就労支援モデル事業
第3回セミナー「発達障害者の就労支援」参加
- 1 2月11日 (水) 理事会 (第56回) 臨時総会開催承認
- 1 2月13日 (金) 日光市・生活福祉課障がい福祉係との打ち合わせ
- 1 2月20日 (金) 「子どもの居場所」クリスマス会
- 1 2月22日 (日) ベリー会：月例会
- 1 2月22日 (日) 12.22福島緊急シンポジウム (主催：市民と科学者の内部被曝問題研究会) 参加
- 1 2月27日 (金) 「子どもの居場所」大掃除、「学びサポート」忘年食事会
- 1 月 8日 (水) 理事会 (第57回) および臨時総会
- 1 月17日 (金) 医療機関と連携した精神障害者の就労支援モデル事業
第4回セミナー「精神障害者の雇用管理と就労支援」
- 1 月19日 (日) ベリー会：月例会
- 2 月10日 (月) 茶話会 (第45回) 予定



ワカモノフェスタ スナップ

右上：入り口は旗と看板でアピール
中学生たちはステージ司会など大活躍
右下：回折格子を使った分光計作り
どれどれ、虹が見えたかな。
作成キットはまだありますので
希望の方に配布可能です。
左：黒紙の端をたどるようプログラム
された自立型ロボットの行進。



子育て・親育ち勉強会 第10回

「ん？うちの子、ちょっと心配？」 と思ったら 小・中学校編

講師：^{かたひら} 帷子 顕二郎さん
日光市教育委員会 発達相談員 (臨床心理士)

3/15



社会全体に発達障がいという言葉は浸透してきましたが、理解が進んでいる半面、親として新しい心配事も出てきます。子どもたちへの接し方で困っていることはありませんか？
今回も下記のように、帷子先生のお話を聞く勉強会を計画しました。

日時：2014年3月15日 (土)
午後1時30分～3時30分

場所：日光市今市中央公民館和室

定員：20名 (先着順)

参加費：無料

★託児あります (300円/人) 先着10名
(子どもたちの交流が楽しそうですよ。)

主催：NPO 法人なんとなくのひろば

共催：日光市

後援：日光市教育委員会

問い合わせ＆申込先：NPO 法人なんとなくのひろば
TEL：090-3227-7079

※駐車場が満車の時は、日光市民活動支援センターに
駐車してください。

あなたの具体的な悩みや質問に
帷子先生が答える質問タイムも
あります。



子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所 (日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日 (午前10時～12時)

参加費：300円 (お茶代)

次回の日程はお問い合わせ下さい。

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(090-3227-7079)



こんな本はいかが？ その 23 詩人・吉野弘さんの詩

吉野さんは1月15日に87歳で亡くなりました。新聞やテレビで取り上げられていましたが、「祝婚歌」という詩がなんとも味わいのある、とても深い意味を持った詩だと思います。(白井)

祝婚歌 吉野 弘 詩集「奈々子に」(岩崎書店)より

二人が睦まじくいるためには
愚かであるほうがいい
立派すぎないほうがいい
立派すぎることは
長持ちしないことだと気付いているほうがいい
完璧をめざさないほうがいい
完璧なんて不自然なことだと
うそぶいているほうがいい
二人のうちどちらかが
ふざけているほうがいい
ずっこけているほうがいい
互いに非難することがあっても
非難できる資格が自分にあったかどうか
あとで
疑わしくなるほうがいい
正しいことを言うときは
少しひかえめにするほうがいい
正しいことを言うときは
相手を傷つけやすいものだと
気付いているほうがいい
立派でありたいとか
正しくありたいとかいう
無理な緊張には
色目を使わず
ゆったり ゆたかに
光を浴びているほうがいい
健康で 風に吹かれながら
生きていることのなつかしさに
ふと 胸が熱くなる
そんな日があってもいい
そして
なぜ胸が熱くなるのか
黙っていても
二人にはわかるのであってほしい

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

会員について

正会員：47
賛助会員：18
団体会員：4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円
私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。



なんとなくのへや

SF好きなのに、映画「エンダーのゲーム」の原作本は未読でした。1970年代にオースン・スコット・カードによって書かれたお話。私の読書傾向が別の方向に向いていた時期だったのかも。10歳に満たない子どもたちが「エイリアンの侵略から人類を守る」目的で徴用され、将来の司令官としての才能を見いだすためのシミュレーションゲームで闘う。原作に沿い、グループ内での葛藤やいじめ、見守る連合軍責任者の心理などがリアルに描かれ、考えさせられる映画に仕上がっています。残念ながらあまりヒットしなかった様子ですが...。長編版上下2冊、短編集がハヤカワSF文庫から出ています。(T)